

# 2025年1月期 第2四半期 決算説明会

株式会社シーイーシー (9692)  
2024年9月11日

2025年1月期第2四半期決算について、ご説明いたします。  
株式会社シーイーシー 代表取締役社長 姫野でございます。  
よろしくお願いいたします。

## 2025年1月期 第2四半期業績概要

- 業績は堅調に推移し売上高+4.3%、成長投資により営業利益▲7.8%
- 上期業績予想に対し、売上高99.5%、営業利益102.8%の進捗率
- 受注高+6.6%、受注残高+4.7%と伸長、過去最高を更新

## 2025年1月期 業績見通し

- 通期業績予想は3月8日公表数値より変更なし
- 成長投資は計画通りに執行予定

## 株主還元

- 6月7日に30億円を上限とした自己株式の取得および今期内での消却を決議

まず決算ハイライトです。

業績概要としましては、売上高は前年比4.3%増と堅調に推移いたしました。

営業利益は成長投資を計画通りに進めたため、前年比▲7.8%の減益で着地しております。

上期の業績予想に対しては、特に営業利益が目標を超えて進捗いたしました。

受注高・受注残高は過去最高を更新しております。

-----  
通期の見通しについてです。

3月8日のご報告の公表値より変更はございません。

成長投資につきましては、計画通りに執行予定としております。

-----  
株主還元

6月7日に、30億円を上限とした自社株式の取得および今期内で消却を決議しております。

**1. 2025年1月期 第2四半期経営成績**

2. 2025年1月期 通期業績見通し

3. VISION 2030（長期展望）

4. Appendix

それでは、詳細な数値にまいります。

## 連結経営成績



- DX需要増加に伴い、**主力事業・注力事業ともに計画通り**に推移
- **成長投資による費用増はあるが、売上高・売上総利益は過去最高を更新**

	FY2024/2Q累計	FY2025/2Q累計	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	26,445	27,570	+1,124	+4.3%
売上総利益	7,161	7,438	+277	+3.9%
同率	27.1%	27.0%	—	▲0.1pt
営業利益	3,525	3,250	▲275	▲7.8%
同率	13.3%	11.8%	—	▲1.5pt
経常利益	3,549	3,268	▲280	▲7.9%
同率	13.4%	11.9%	—	▲1.5pt
親会社株主に帰属する 中間純利益	2,452	2,213	▲238	▲9.7%
同率	9.3%	8.0%	—	▲1.3pt

(単位：百万円)

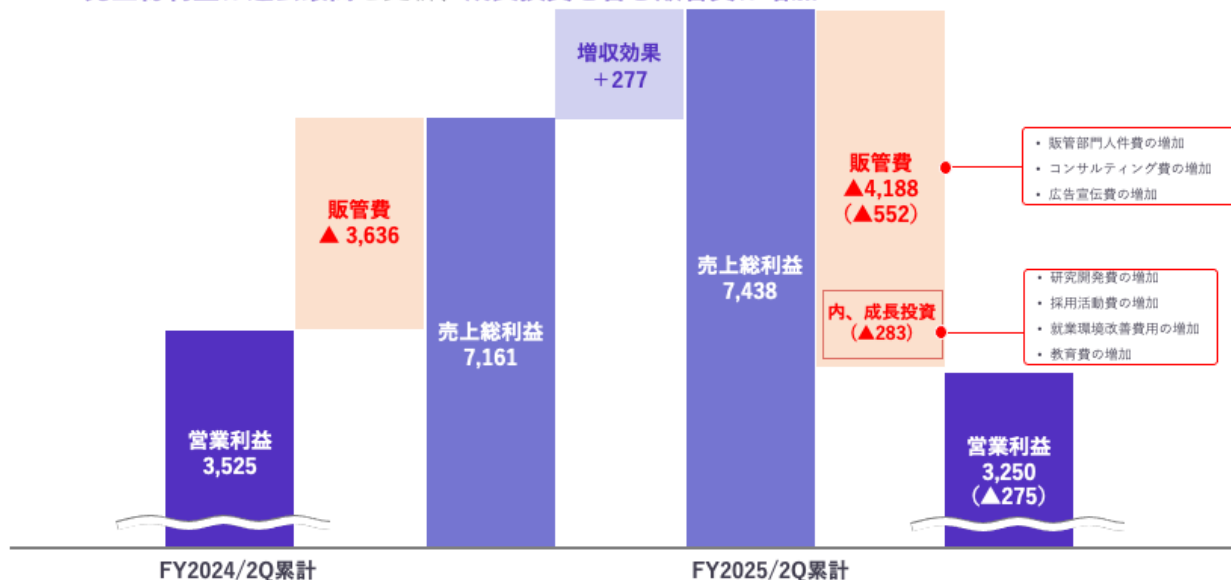
売上高は275億7千万円、前年同期比で+11億24百万円  
 売上総利益は74億38百万円、前年同期比で+2億77百万円  
 ICT投資への需要は引き続き旺盛でありまして、  
 全体としては主力・注力事業ともに計画通りに推移しております。

-----  
 営業利益は成長投資を含む販管費増に伴い、32億5千万円、  
 前年同期比で▲2億75百万円となり、増収・減益の結果となっております。

# 営業利益の主な増減要因

## ■ 売上総利益は過去最高を更新、成長投資を含む販管費は増加

(単位：百万円)



営業利益の主な増減要因でございます。

左側が前年同期、右半分が今期の数字となります。

増収効果により売上総利益は増加しましたが、

成長投資を含む販管費の増加により営業利益は前年同期比▲2億75百万円の減益です。

今年3月の通期決算発表の際にお伝えしています今期の成長投資枠については、計画通りに進捗いたしまして、前年同期比2億83百万円と増加しております。

成長投資の主な内容としては、研究開発費や採用活動強化費用でございます。

## 事業セグメント別業績



- デジタルインダストリーは、主力・注力事業ともに好調に推移し**増収・増益**
- サービスインテグレーションは、注力事業の伸長により**増収も、大型案件の反動減により減益**

(単位：百万円)

	2024年1月期/2Q累計		2025年1月期/2Q累計		増減額	
	売上高	営業利益・率	売上高	営業利益・率	売上高 (増減率)	営業利益 (増減率)
デジタル インダストリー	9,052	2,109 23.3%	9,650	2,394 24.8%	+ 598 (+6.6%)	+ 284 (+13.5%)
サービス インテグレーション	17,393	3,524 20.3%	17,919	3,343 18.7%	+ 525 (+3.0%)	▲180 (▲5.1%)
全社費用※	-	▲2,108	-	▲2,487	-	▲379
合計	26,445	3,525 13.3%	27,570	3,250 11.8%	+ 1,124 (+4.3%)	▲275 (▲7.8%)

※全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用

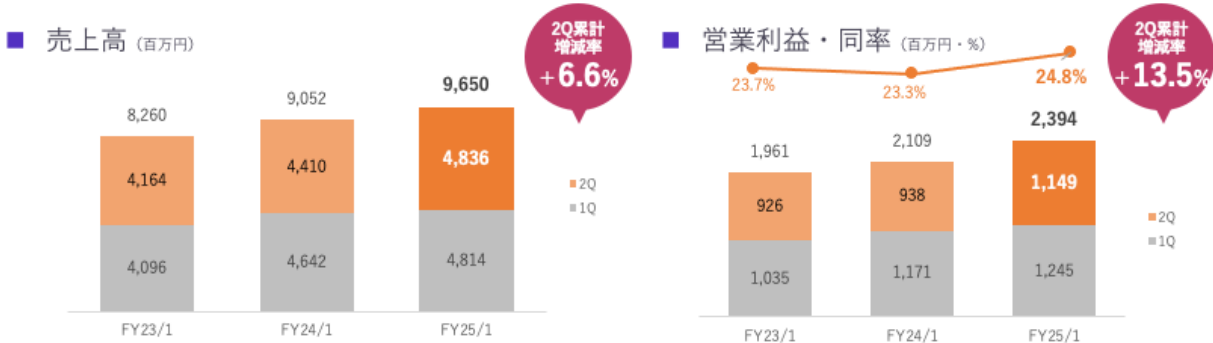
事業セグメント別の業績です。

デジタルインダストリーは製造業を中心にお客様のICT投資需要を取り込み、売上高で+約6億の96億5千万円、営業利益で+約2.8億の23億9千万円で増収・増益となりました。

サービスインテグレーションも事業環境としては順調に推移しまして、売上高で+約5億の179億1千万円と増収となりましたが、営業利益では、前年に計上した大型案件の反動減により▲1.8億の33億4千万円で着地しています。

全社費用は、主に間接部門の費用となりますが、主な増加要因としては、人件費や採用関連費の増加で前年同期比3億79百万円の費用増となりました。

# デジタルインダストリー事業



事業区分	売上高増減率	利益増減率	ポイント
スマートファクトリー	☀️	☀️	・ 工作機械メーカーの投資抑制の影響は残るも、生産システム開発投資は復調傾向 ・ 利益面ではFA開発の商談増加により開発コンサル支援業務が増加し増益
コネクティッドサービス	☀️	☀️	・ モビリティ関連のクラウド開発や自動車産業向けのビッグデータ分析基盤構築が好調 ・ 利益面ではクラウド開発およびビッグデータ分析基盤構築案件の増加により増益
中部サービス	☀️	☀️	・ 主要顧客における基幹系(設計領域)のシステム開発案件が好調 ・ 利益面ではシステム開発案件の増加に伴い増益
西日本サービス	☀️	☀️	・ 顧客システムのリプレースに伴うEOLサービス、物流ソリューション「LogiPull」が堅調 ・ 利益面ではEOLサービスが増加し増益

☀️ +10%以上    🌤️ +5~10%未満    ☁️ ±5%未満    🌧️ ▲5~10%未満    🌧️ ▲10%以上

デジタルインダストリー事業セグメントの事業区分別の状況です。

-----

[スマートファクトリー]

- ・ 売上面では、工作機械メーカーの投資抑制の影響は、今年も依然として残りますが、生産系システムの開発が復調傾向にあり、緩やかに伸長しております。
- ・ 利益は、FA開発の増加により前年同期比で2桁成長をしております。

-----

[コネクティッドサービス]

- ・ コネクティッド関連のクラウド開発やモビリティのビッグデータ分析基盤が好調に推移しまして、増収・増益。

-----

[中部サービス]

- ・ 主要なお客さまの基幹系（主に設計領域）のシステム開発が堅調であり、増収・増益。

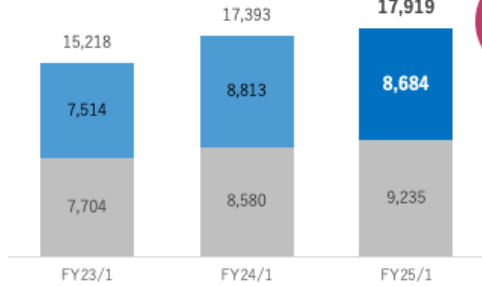
-----

[西日本サービス]

- ・ お客さまシステムのリプレースに伴うEOLサービスに加え、自社の物流ソリューションである「LogiPull」（ロジプル）も伸長いたしまして、増収・増益となっております。

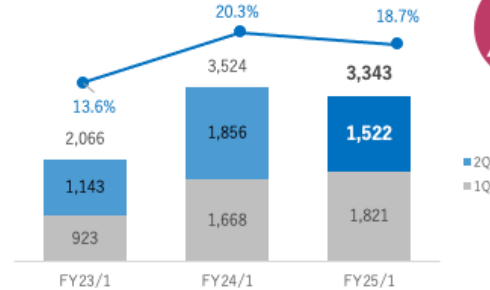
# サービスインテグレーション事業

## ■ 売上高 (百万円)



2Q累計  
増減率  
+3.0%

## ■ 営業利益・同率 (百万円・%)



2Q累計  
増減率  
▲5.1%

事業区分	売上高 増減率	利益 増減率	ポイント
サービスインテグレーション			・売上高は、 <b>マイクロソフト連携</b> および <b>マイグレーション</b> 領域ともに順調に増加 ・利益面では、主力事業のシステム開発及び注力事業も押しなべて伸長し、 <b>増益</b>
プラットフォームアーキテクト			・売上高は、 <b>セキュリティ事業</b> が健闘し増収も、 <b>ICTインフラ構築事業</b> は案件延伸の影響等により <b>微増収</b> ・利益面では、 <b>セキュリティ事業の大型案件反動減</b> により減益
グループ会社			・金融業向けシステム開発が伸び悩んだものの、その他の <b>システム開発商談</b> は <b>前期並みに推移し微増収</b>

+10%以上 +5~10%未満 ±5%未満 ▲5~10%未満 ▲10%以上

サービスインテグレーション事業セグメントの事業区分別の状況です。

-----  
[サービスインテグレーション]

- ・注力事業であるマイクロソフト社との連携ビジネス、マイグレーションはDX需要を背景に順調に増加しております。
- ・利益面では、主力事業のシステム開発も伸長いたしまして、増益で着地しております。

-----  
[プラットフォームアーキテクト]

- ・売上面では、注力事業のセキュリティが健闘しまして増収となったのですが、ガバメントクラウド案件などの予定案件が延伸したことで、ICTインフラ構築事業は横ばいで推移しております。
- ・利益面では、前期のセキュリティ大型案件の反動減により減益となりました。

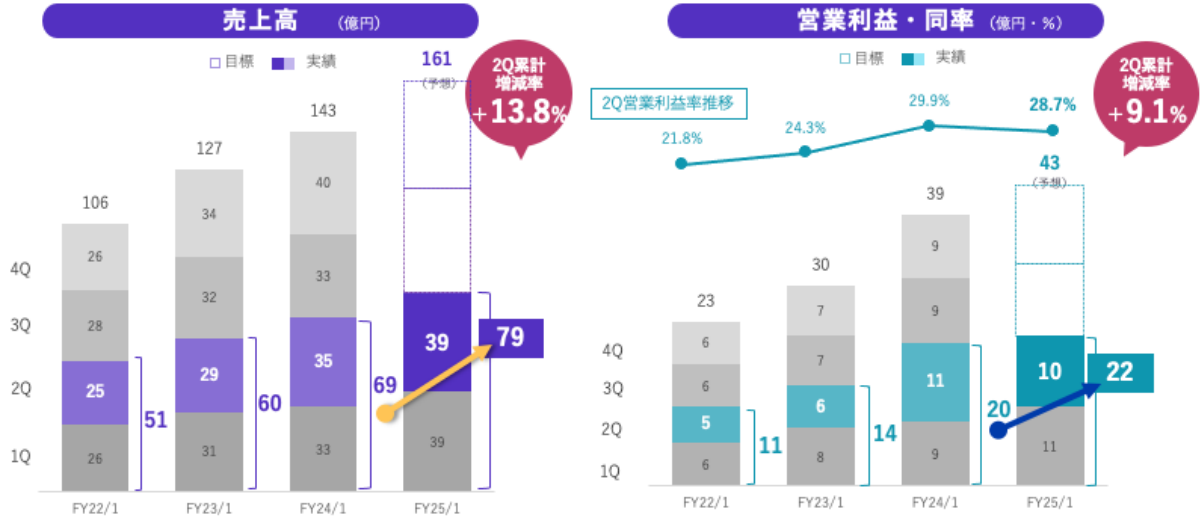
-----  
[グループ会社]

- ・金融業向けのシステム開発は伸び悩んだものの、その他の業種、サービスは前期並みに推移しております。



# 注力事業の進捗

■ 顧客のDX需要に沿ったICT利活用提案が奏功し、増収・増益



注力事業全体の進捗状況です。

各領域で濃淡はありますが、お客さまのICT投資や旺盛なDX需要への提案が奏功しまして、売上は前年同期比+13.8%、約10億円の増加です。

利益面も前年同期比+9.1%、約2億円の増加と計画通りに伸長しております。

今期は、前年のセキュリティ大型案件の反動減の影響が利益・利益率に出ておりますが、その他の領域でカバーしまして、増益での着地となりました。

## ■ モビリティ、マイクロソフト連携が全体をリード

デジタルインダストリー	生産・物流ソリューション	売上高増減率 <b>+17.1%</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産：主要顧客の投資抑制影響は継続も、DX伴走支援サービスが伸長</li> <li>物流：「2024年物流問題」を背景に、空輸業界向け物流システム開発が伸長</li> </ul>
	モビリティサービス	通期目標進捗率 <b>47.4%</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車メーカー向けのクラウド開発やビッグデータ分析基盤構築案件が好調</li> <li>BEV関連の車載制御ソフト開発が増加</li> </ul>
サービスインテグレーション	マイクロソフト連携サービス	売上高増減率 <b>+11.5%</b> 通期目標進捗率 <b>50.5%</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ローコード開発需要が増加し、Power Platformが好調</li> <li>生成AI (Azure OpenAI) サービスのリリースによりコンサル商談が増加</li> </ul>
	マイグレーションサービス		<ul style="list-style-type: none"> <li>クラウド化・セキュリティ強化を目的としたマイグレーション商談が堅調</li> <li>レガシーマイグレーションの引合いは増加も、商談化までが長期化傾向</li> </ul>
	セキュリティサービス		<ul style="list-style-type: none"> <li>セキュリティ監視サービス (SOC) は医療系市場の開拓が進み伸長</li> <li>自社製品 (SmartSESAME) は金融機関向けのPCログオン拡販が堅調</li> </ul>
	DXクラウド基盤		<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年1月期からの商用化を予定。自社製品のSaas化によるサブスク展開から</li> </ul>

注力事業の各領域別の状況です。  
 詳細な説明は割愛させていただきますが、

-----

[デジタルインダストリー]

自動車メーカー各社の投資が好調な背景もあり、  
 モビリティ領域の開発・サービスが伸長しております。

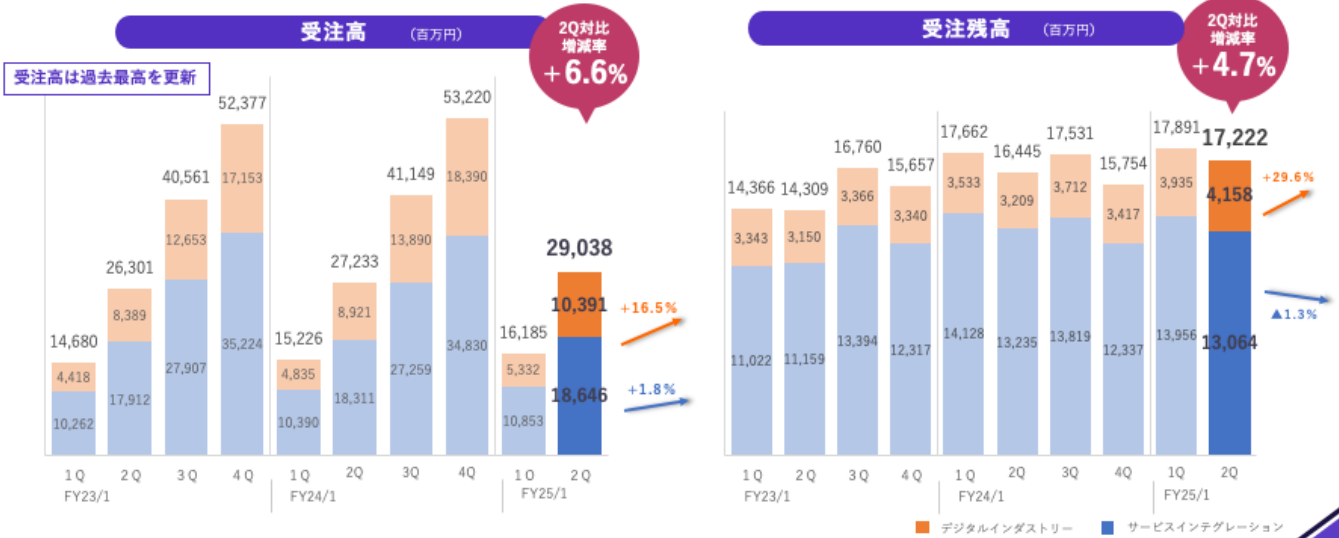
-----

[サービスインテグレーション]

CRMやローコード開発需要の増加により、  
 マイクロソフト社との連携サービスが伸長しています。  
 マイグレーションやセキュリティもDX需要がけん引し、堅調に推移しております。

# 受注高・受注残高の推移

- デジタルインダストリー：自動車メーカーを中心とした製造業顧客のICT投資意欲は高く受注も増加
- サービスインテグレーション：システム開発案件及び注力事業領域の案件増加により受注が増加



続きまして受注状況についてのご説明です。  
 受注高は両セグメントともに堅調に積み上がりまして、  
 前年同期比+6.6%、約18億円増の290億円となりました。  
 第2四半期累計では過去最高を更新しております。

受注残高につきましても、デジタルインダストリーを中心に積み上がり、  
 前年同期比+4.7%、約8億円が増加しております。  
 サービスインテグレーションの受注残高が前年同期比で減少していますが、  
 こちらは計画通りに売上計上されていますので特段ご心配の必要はございません。

# 業種別売上高



(単位：百万円)

	FY2024/2Q	FY2025/2Q	前年同期比		業種別のポイント
			増減額	増減率	
製造業 (構成比)	11,423 (43.2%)	12,521 (45.4%)	+1,097	+9.6%	<b>【製造】</b> 自動車メーカーを含む主要顧客のシステム開発案件が好調
通信・情サビ業 (構成比)	7,003 (26.5%)	6,929 (25.1%)	▲73	▲1.0%	<b>【通信・情サビ】</b> キャリア向けのシステム開発案件が減少
金融業 (構成比)	2,436 (9.2%)	2,369 (8.6%)	▲66	▲2.7%	<b>【流通】</b> マイクロソフト連携ビジネス(PowerPlatform)が増加
流通業 (構成比)	1,539 (5.8%)	1,840 (6.7%)	+300	+19.6%	<b>【官公庁】</b> 官公庁向けのシステム開発案件が増加も、前期計上の大型案件の反動減により減少
官公庁 (構成比)	1,946 (7.4%)	1,727 (6.3%)	▲218	▲11.2%	
その他 (構成比)	2,096 (7.9%)	2,181 (7.9%)	+84	+4.0%	
合計	26,445 (100%)	27,570 (100%)	+1,124	+4.3%	

業種別の売上高の状況です。

【製造業】

自動車メーカーを中心に既存のICT投資が好調を維持しております。

【流通業】

マイクロソフト連携でのローコード案件が増加しております。

【官公庁】

前期に計上したセキュリティ案件の反動減により減少しており、

今年は全体的にもガバメントクラウド案件の計画遅れなど、今期は軟調とみております。

# 貸借対照表



(単位：百万円)

	2024年 1月末	2024年 7月末	増減額	増減率	ポイント
<b>流動資産</b>	39,005	<b>39,137</b>	+131	+0.3%	<b>【資産】増加</b> 退職給付に係る資産の増加 投資有価証券評価額の増加 自己株式取得による現預金減少
うち現金及び預金	26,714	<b>26,265</b>	▲449	▲1.7%	
<b>固定資産</b>	12,385	<b>13,302</b>	+916	+7.4%	<b>【負債】増加</b> 未払法人税等の増加
<b>総資産</b>	51,391	<b>52,439</b>	+1,048	+2.0%	
<b>流動負債</b>	9,006	<b>9,249</b>	+242	+2.7%	<b>【自己資本】増加</b> 利益剰余金の増加 自己株式の増加
<b>固定負債</b>	1,597	<b>1,628</b>	+30	+1.9%	
<b>自己資本</b>	40,760	<b>41,525</b>	+765	+1.9%	
<b>自己資本比率</b>	79.3%	<b>79.2%</b>	—	▲0.1pt	

バランスシート (B/S) の状況です。

【資産】

退職給付や投資有価証券の評価額等により増加していますが、自己株式取得により現預金は減少しております。

【負債】

未払法人税の増加によるものです。

【自己資本】

利益剰余金の増加に加えて、自己株式の増加により増加しております。

1. 2025年1月期 第2四半期経営成績
2. 2025年1月期 通期業績見通し
3. VISION 2030（長期展望）
4. Appendix

続きまして、2025年1月期の通期の業績見通しです。

## 2025年1月期 通期業績予想



■ 通期業績予想は3月8日公表値より変更なし

(単位：百万円)

	2025年1月期				2024年1月期		
	上期実績	進捗率	下期予想	通期予想	通期実績	前期比	
						差	増減率
売上高	27,570	48.8%	28,930	56,500	53,124	+3,376	+6.4%
売上総利益	7,438	48.0%	8,062	15,500	14,096	+1,404	+10.0%
同率	27.0%	—	27.9%	27.4%	26.5%	—	+0.9pt
営業利益	3,250	51.8%	3,030	6,280	6,361	▲81	▲1.3%
同率	11.8%	—	10.5%	11.1%	12.0%	—	▲0.9pt
経常利益	3,268	51.9%	3,032	6,300	6,409	▲109	▲1.7%
同率	11.9%	—	10.5%	11.2%	12.1%	—	▲0.9pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,213	51.5%	2,087	4,300	4,541	▲241	▲5.3%
同率	8.0%	—	7.2%	7.6%	8.5%	—	▲0.9pt

© Computer Engineering & Consulting Ltd. All rights reserved.

14

売上は565億円、営業利益は62億8千万円、当期純利益43億円です。  
通期計画に対して、上期は概ね計画通りの進捗状況のため、  
2025年1月期の通期業績見通しの変更は現時点ではございません。

利益面は進捗が先行しており、下期の数値が上下バランスで  
少し弱めに見えるかもしれませんが、  
下期は当初計画の通り、販管費に含まれている成長投資の割合が高いため、  
公表値は据え置きとさせていただきます。

現時点では、事業環境での大きな懸念点はございませんので、  
期初計画を最低ラインと捉え、目標値以上の達成を目指して推進してまいります。

## 2025年1月期 事業セグメント別業績予想

■ 事業セグメント別通期業績予想も3月8日公表値より変更なし

(単位：百万円)

	2025年1月期/上期		2025年1月期/通期		進捗率	
	売上高	営業利益 同率	売上高	営業利益 同率	売上高	営業利益
デジタル インダストリー	9,650	2,394 24.8%	20,200	4,800 23.8%	47.8%	49.9%
内、注力事業	3,463	—	7,300	—	47.4%	—
サービス インテグレーション	17,919	3,343 18.7%	36,300	6,110 16.8%	49.4%	54.7%
内、注力事業	4,448	—	8,800	—	50.5%	—
全社費用	—	▲2,487	—	▲4,630		53.7%
合計	27,570	3,250 11.8%	56,500	6,280 11.1%	48.8%	51.8%

事業セグメント別です。

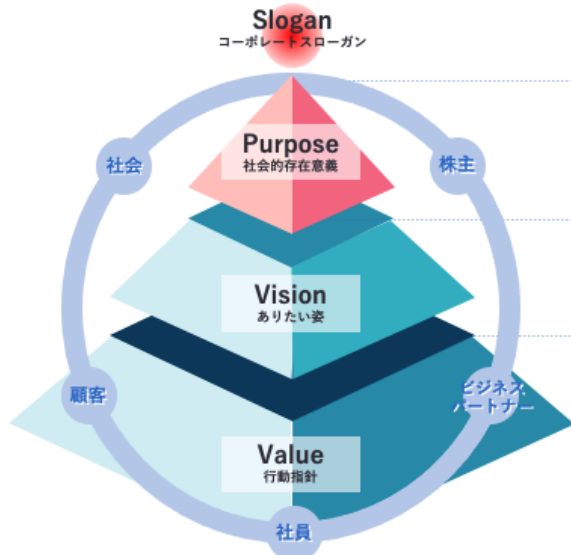
こちらも現時点では通期の業績見通しに変更はございません。



1. 2025年1月期 第2四半期経営成績
2. 2025年1月期 通期業績見通し
3. **VISION 2030（長期展望）**
4. Appendix

続きまして、VISION 2030 長期展望につきまして、  
現時点でご報告できる内容について概要をご説明させていただきます。

## VISION 2030の羅針盤として理念体系を再構築中



Shape your future

ICTの力で新たな価値を創造し、  
社会、顧客、そして社員が、もっと輝く未来へ

エッセンシャル  
カンパニー

ステークホルダーにとって、“必要不可欠”な企業へ  
～豊かな未来を創造し、人々の幸せを実現する～

[essentials]



まず、会社の羅針盤となる経営理念を再定義して定着させ、  
推進してまいろうと考えております。

・ Purpose (社会的存在価値)

「ICTの力で新たな価値を創造し、社会、顧客、そして社員が、もっと輝く未来へ」  
というメッセージにしております。

・ Vision (ありたい姿)

「エッセンシャルカンパニー」

ステークホルダーにとって、“必要不可欠”企業になっていく  
というメッセージにしております。

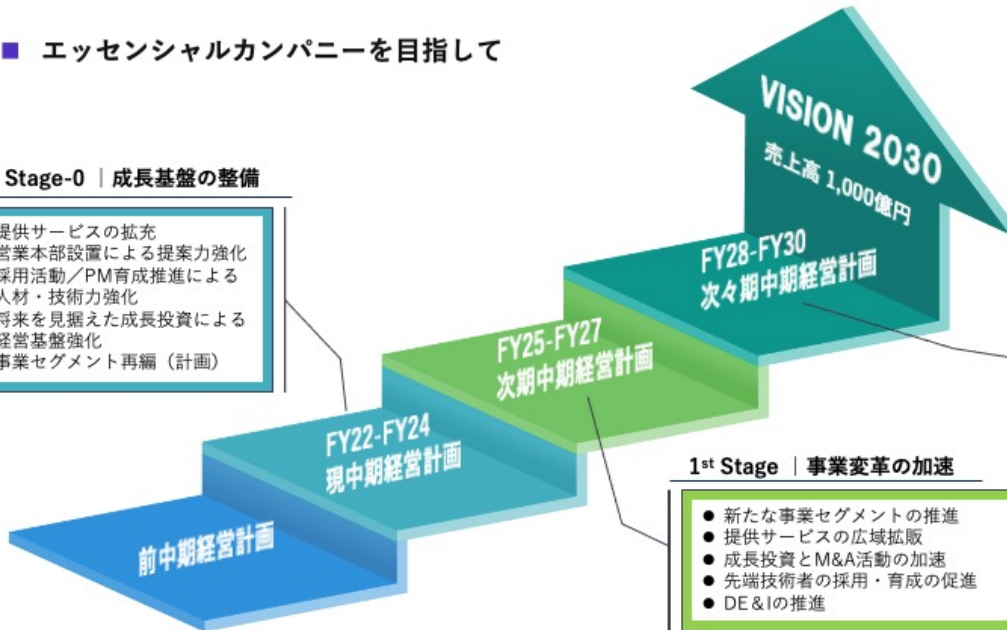
このPurpose・Visionをもとに今後、行動指標・行動指針をしっかりと策定しまして、  
社内外に発信して定着させたいと考えております。

# VISION 2030 アウトライン

## ■ エssenシャルカンパニーを目指して

### Stage-0 | 成長基盤の整備

- 提供サービスの拡充
- 営業本部設置による提案力強化
- 採用活動/PM育成推進による人材・技術力強化
- 将来を見据えた成長投資による経営基盤強化
- 事業セグメント再編 (計画)



### 2nd Stage | 創出価値の拡大

- 新たな社となる事業の確立
- 事業規模拡大の加速
- イノベーションを創出する企業文化醸成
- 事業を通じた社会的価値の拡大

### 1st Stage | 事業変革の加速

- 新たな事業セグメントの推進
- 提供サービスの広域拡販
- 成長投資とM&A活動の加速
- 先端技術者の採用・育成の促進
- DE&Iの推進

「VISION 2030」のアウトラインです。  
現在の中期経営計画は2030年度に向けた「転換期」と捉えておりまして、  
中長期計画の策定に加えまして、  
事業セグメントの再編、経営基盤強化に向けた成長投資を推進しております。

来年度からの次期中期経営計画は、新たな事業セグメントでの実行・推進、  
成長投資やM&A活動を加速して、更に「成長」させていきます。

2ndステージの次々期中期経営計画では、  
グループ経営の充実、自社商材の国内外展開や新たな事業の定着により、  
事業規模を更に拡大させてまいります。

この3段階を経て、2030年度には売上高倍増の1000億円、  
エssenシャルカンパニーを目指して、ビジネスを推進してまいります。

# 次期事業セグメント（概要）

## ■ 環境変化のスピードに対応するため事業セグメントを再編

### 現行セグメント

<b>デジタルインダストリー事業</b>
製造業のお客様を中心に、業務の効率化や品率の向上、魅力ある製品づくりを支援するICTサービス・製品を提供
<b>サービスインテグレーション事業</b>
企業・組織の業務改革・改善に必要な、ICTライフサイクル全般を支援。クラウド、セキュリティ含むICTサービス・製品をトータルで提供

### 次期セグメント

<b>インテグレーション事業(仮称)</b>	長年にわたり培ってきた業界知見と顧客理解をもとに、従来のシステム開発にとどまらず、企画からインフラ設計・構築、運用までワンストップでインテグレーションサービスを提供
<b>コネクティッド事業(仮称)</b>	IoTやSF領域における豊富な実績とノウハウを活かし、産業間の垣根を超えたデータ統合や分析プラットフォームを提供
<b>ソリューション事業(仮称)</b>	様々な業界の顧客への製品・サービス提供で培ってきたICT資産とノウハウを活かし、自社の製品・サービスを中心とした、「安心・安全」をコンセプトとしたソリューションを提供

※詳細は2025年3月開示の中期経営計画資料にて開示予定

来期より新たな事業セグメントで進めていきます。  
将来の市場予測や技術動向などの外的要因と、  
現行の事業評価や保有スキルの内的要因から、  
現在の2つの事業セグメントから、来期は3セグメントに再編いたします。

#### ・インテグレーション事業セグメント（仮称）

従来のシステム開発に加えて、ICTインフラの設計・構築、運用を加えまして、  
一気通貫のサービスを提供してまいります。

#### ・コネクティッド事業セグメント（仮称）

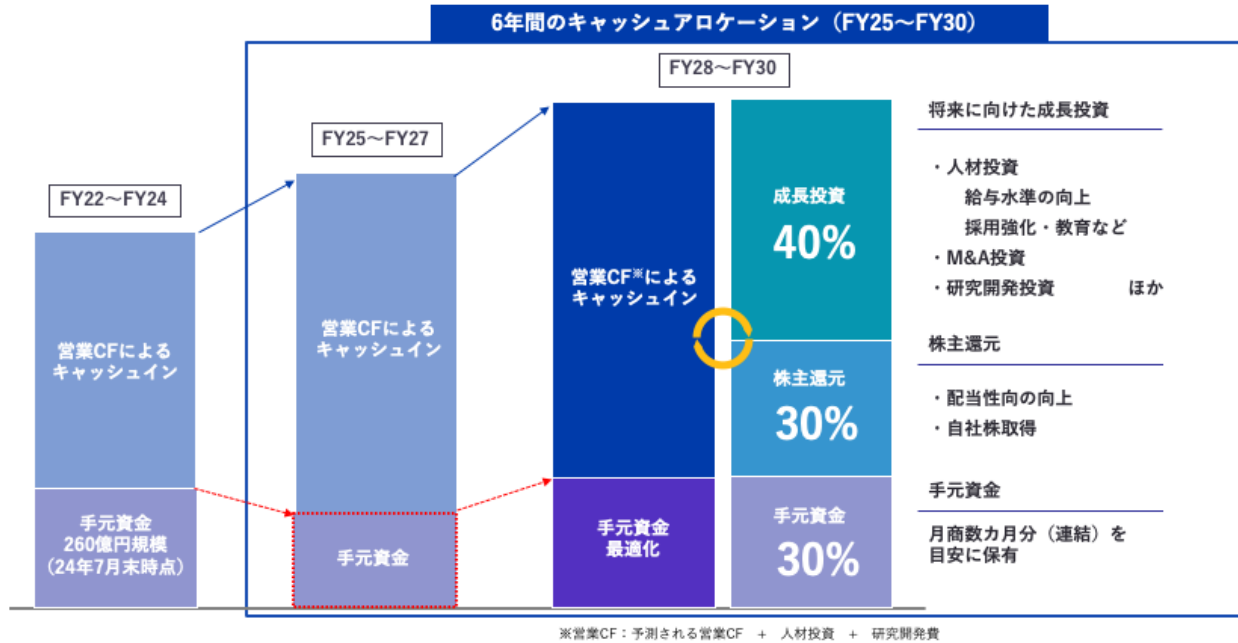
IoTやスマートファクトリーの領域で培った、各産業でのデータ収集から  
蓄積・分析の仕組みや商材を駆使しまして、  
デジタルデータを中心に捉えたビジネスを展開してまいります。

#### ・ソリューション事業セグメント（仮称）

セキュリティや物流、医療の自社製品・サービスを中心に  
AIなどの先端IT技術を掛け合わせて、お客さまにとっての  
「安心・安全」をコンセプトとしたソリューションを展開してまいります。

各セグメントの事業戦略や詳細なActionプランを策定中であります。  
来年3月の通期の決算説明会で発表したいと考えております。

# VISION 2030 キャッシュアロケーション方針



最後に「キャッシュアロケーション」の考え方についてご説明いたします。

現在、当社の手元資金（約260億円）の水準は保守性が高い状態だと認識しております。このため、2030年度までの手元資金の最適水準、その割合を定義しまして、過剰資本とならないように成長投資に重点を置いた投資を行いまして、自社株取得や配当を中心とした株主還元をしっかりと行い、バランス良くアロケーションする事を考えております。

本スライドのポイントは、次期中期経営計画中に保守性の高い手元資金を圧縮して、成長投資・株主還元効率的に振り分ける点となります。

各項目に具体的な数字は記載しておりませんが、内部では当然試算しておりまして、現在は精緻化に向けて検証中段階ですので、正式発表は来年3月の通期決算説明会の場とさせていただきたいと思っております。

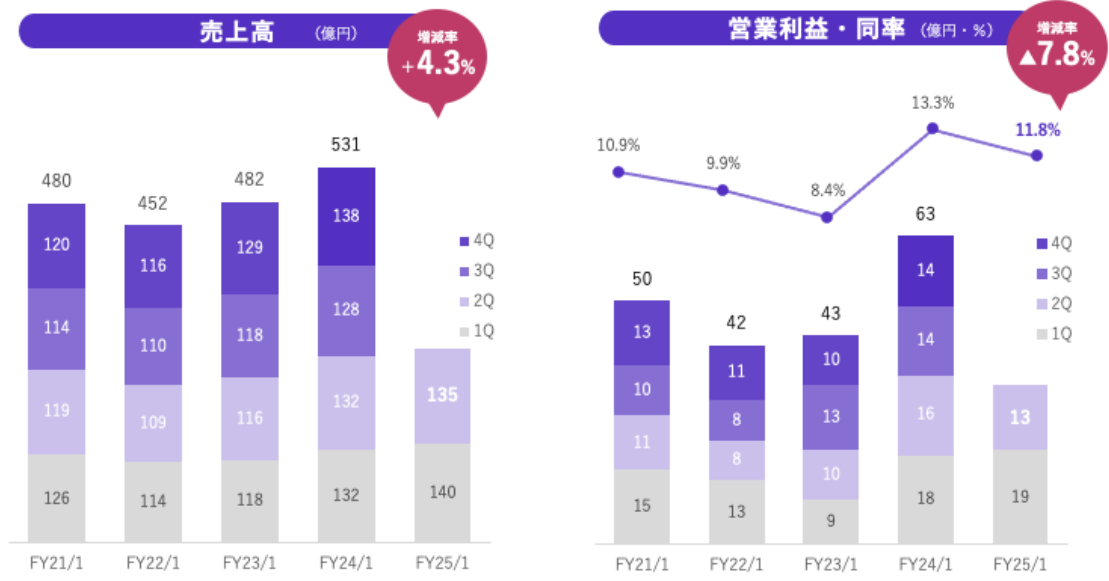
当社の伸びしろはまだあると考えており、今後は積み上げてきた資本を更なる成長のために積極的に活用していきたいと考えております。

以上で、2025年1月期第2四半期の決算説明を終了いたします。ご清聴、ありがとうございました。

1. 2025年1月期 第2四半期経営成績
2. 2025年1月期 通期業績見通し
3. VISION 2030（長期展望）
4. **Appendix**

（説明省略）

# 四半期業績推移



(説明省略)

## ■ コネクティッドサービスおよびサービスインテグレーションが増加

デジタルインダストリー	スマートファクトリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工作機械メーカーの投資抑制影響は継続も、工場DX案件の引合いは増加</li> <li>・DX伴走支援サービスが増加傾向にあり、生産管理システムの開発支援が伸長</li> </ul>
	コネクティッドサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車メーカー向けのビッグデータ分析基盤構築やクラウドサービス開発が引き続き好調</li> <li>・BEV関連の車載制御ソフト開発に加え、車載検証も増加</li> </ul>
	中部サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要顧客における生産管理系システムや部品表システム更新案件が増加</li> </ul>
	西日本サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物流ソリューション「LogiPull」は空輸業向けの大型商談獲得により伸長</li> </ul>
サービスインテグレーション	サービスインテグレーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクロソフト連携はDynamics 365に加え、Power Platform案件が増加</li> <li>・マイグレーションはクラウド移行案件が堅調、加えてシステム更改案件が増加</li> </ul>
	プラットフォームアーキテクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガバメントクラウド関連のリモート運用案件とセキュリティ監視サービス(SOC)が増加</li> <li>・自社製品(SmartSESAME)は金融業向けにPCログオンが堅調</li> </ul>
	グループ会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要顧客向けの受注は前期並みに推移し、その他のシステム開発商談は増加</li> </ul>

(説明省略)

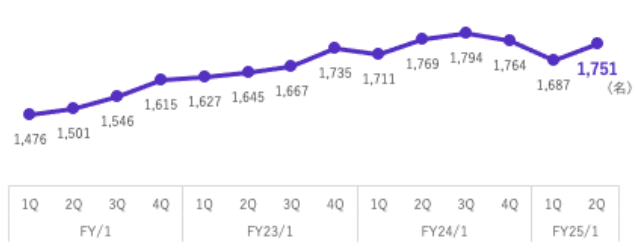


# その他の指標

## ■ 従業員数の推移

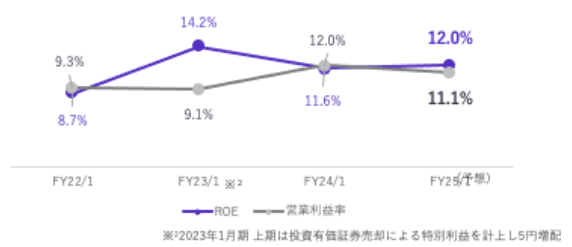


## ■ パートナー人数の推移※1



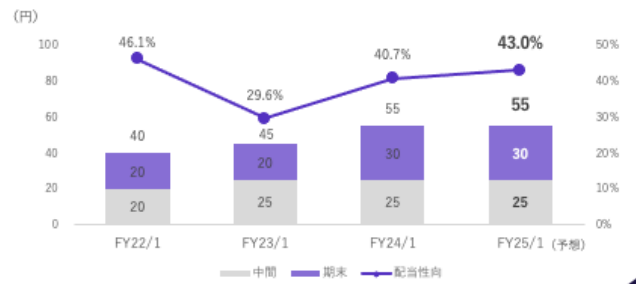
※1 シーイーシー<単体> 請負契約含めず

## ■ ROE・営業利益率推移



※2023年1月期 上期は投資有価証券売却による特別利益を計上し5円増配

## ■ 配当性向および配当金推移



(説明省略)

## Vision 2025 「ICT技術で未来を創る企業」へ



	売上高	経常利益	経常利益率	ROE・配当性向
<b>経営指標の目標値</b>	<b>565億円</b>	<b>63億円</b>	<b>11%以上</b>	<b>ROE：12%以上 配当性向：40%以上</b>

(説明省略)

# 会社概要



**名称** 株式会社シーイーシー  
Computer Engineering & Consulting Ltd.

**設立年月日** 1968年2月24日

**上場取引所** 2022年4月（プライム市場）  
2001年7月（東証一部）

**資本金** 65億8千6百万円

**売上高** 531億2千4百万円（2024年1月期）

**各種許可** ■経済産業省システム監査企業台帳登録企業  
■経済産業省情報セキュリティサービス台帳登録企業  
■プライバシーマーク認定事業者11820032（13）  
■JQA認定  
・品質マネジメントシステム  
ISO9001:2015（登録証番号JQA-1481）  
・情報セキュリティマネジメントシステム  
ISO/IEC27001（登録証番号JQA-IM0007）  
・クラウドサービス情報セキュリティマネジメントシステム  
ISO/IEC27017（登録証番号JQA-IC0040）  
・ITサービスマネジメントシステム  
ISO/IEC20000（登録証番号JQA-IT0005）  
・環境マネジメントシステム  
ISO14001:2015（登録証番号JQA-EM7701）  
■電気通信工事業 国土交通大臣（般-4）第28700号  
（許可年月日：2022年11月21日）

**従業員数** 2,320名（2024年7月31日現在）

**連結子会社** 8社

**本社事務所** 〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-5-5 JR恵比寿ビル

**代表者** 代表取締役社長 姫野 貴

**事業内容**

**■デジタルインダストリー事業**

製造業のお客様を中心に、業務の効率化や品質の向上、魅力ある製品づくりを支援するICTサービス・製品を提供

**■サービスインテグレーション事業**

企業・組織の業務改革・改善に必要な、ICTライフサイクル全般を支援クラウド、セキュリティ含むICTサービス・製品をトータルで提供

**<サステナブルな社会実現に貢献する2つの事業>**



(説明省略)

# 【セグメント情報】 デジタルインダストリー事業

## 製造業特化のICTパートナー

	事業概要	強み
スマートファクトリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製造業の生産物流分野を対象とする 製品企画、製品開発・システム開発、保守、ソリューションサービス業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 工場現場の情報基盤</li> <li>● AI画像認識・検知</li> <li>● OT領域のノウハウ</li> <li>● 自社製品のラインアップ</li> </ul>
コネクティッドサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● モビリティを中心としたIoTコネクティッド分野に関するコンサルティング・システム開発・保守運用、ソリューションサービス業務</li> <li>● 車載機器を中心とした組み込みソフトウェア開発に関する業務</li> <li>● 自動テスト、CI/CD構築などの品質ソリューションに関する業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● クラウド/車両制御など専門知識を持つエンジニア</li> <li>● モビリティサービスに関する開発知見やノウハウ</li> <li>● 企画・開発・保守と対応できるワンストップ対応力</li> </ul>
中部サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動車産業を対象とする技術情報部門(部品表・PDM・CAD)、企業情報部門(販売・ファイナンス・経理)、企業情報部門(人事・生産物流)向けのICTサービス全般</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大手自動車メーカーとの繋がりや業務ノウハウ</li> <li>● 創業期からの直接取引による信頼関係</li> <li>● 豊富な業務経験(部品表・生産管理・調達・人事・経理)からくるレガシーシステムの知見</li> </ul>
西日本サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関西・北陸エリアの業務SIおよびEOSソリューションを活用したSIサービスを提供</li> <li>● 物流・製造領域のIoT分野を中心とした商品の企画・開発・保守・運用業務・製品サービスの提供</li> <li>● FA/産業機器、医療ヘルスケア分野を中心としたシステム開発・検証・保守・運用・導入サービスの提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 物流ソリューションにおける顧客別カスタマイズ対応</li> <li>● 空港、製造工場などの特殊案件に対する実績</li> </ul>

(説明省略)

# 【セグメント情報】 サービスインテグレーション事業

## ICTのトータルインテグレーター

		事業概要	強み
サービス インテグレーション	エンタープライズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マイクロソフト社のDynamics 365、Microsoft 365、Azure等のクラウドを活用したコンサル・システム開発・保守運用業務</li> <li>● 官公庁、自治体向けソリューション・システム開発・保守運用業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SFA領域での実績、ノウハウ</li> <li>● 官公庁、自治体向けクラウド開発の実績</li> </ul>
	AXサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マイグレーションサービスを活用したICTモダナイゼーションに関するコンサルティング・システム開発・保守運用業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マルチ対応が可能、ワンストップ対応力</li> <li>● 豊富なノウハウ×自動化ツール×専門技術者</li> </ul>
	ビジネスシステム	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 銀行・保険・クレジットカード・証券・リースなど金融分野を対象としたシステム開発・保守運用業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 金融業務のノウハウを熟知した技術者</li> <li>● 開発から運用を含めた一気通貫の提案対応力</li> </ul>
プラットフォーム アーキテクチャ	セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各種セキュリティサービス、セキュリティ機器の監視・運用業務</li> <li>● 認証技術を基盤としたオフィスセキュリティに関する製品開発・販売、ソリューションサービス、システム開発・保守運用業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品系:マルチメーカー対応、全国の販売チャネルを保有</li> <li>● サービス系:マルチベンダー対応、対応監視範囲の広さ</li> </ul>
	プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ICTシステムおよびクラウドサービスの企画検討から、設計・構築・移行・運用までライフサイクルマネジメント全般に関する業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ICTインフラの設計・構築・移行・運用までワンストップ対応力</li> <li>● マルチベンダー・マルチクラウド対応可能</li> </ul>
	データセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データセンターサービス、クラウドサービスに関する業務</li> <li>● システムの運用設計・導入支援・運用管理サービスに関する業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エンジニア常駐による24H365D対応が可能</li> <li>● 100%グリーン電力採用</li> </ul>
	グループ会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ニアショア開発・構築・保守運用業務</li> <li>● 人材派遣サービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大手メーカーとの繋がりや業務ノウハウ</li> </ul>

編入

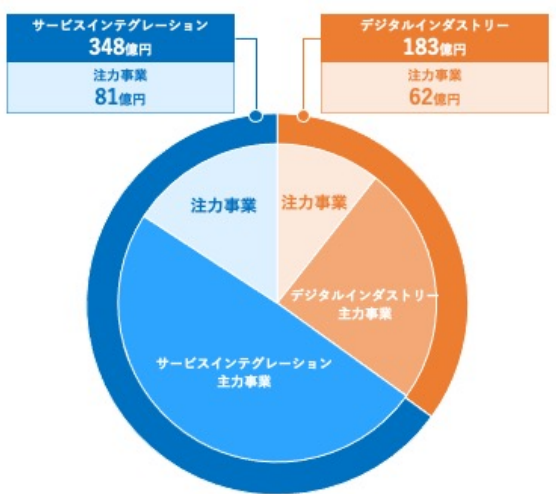
編入

※2024年2月よりサービスインテグレーション事業の組織の再編成を行いました。

(説明省略)

# 注力事業について（2024年1月期実績）

全社売上531億円



## 注力事業：独自の特長を生かした事業分野

事業分野	特長	提供サービス	説明
デジタルインダストリー	生産・物流ソリューション	Visual Factory, LogiPull	製造業向けの製品サービスに加え、物流ソリューション「LogiPull」を追加し、生産現場から物流までのデジタル化支援・DX戦略支援を行う
	モビリティサービス	PlusLocation, SimuField-SC	主に自動車産業のコネクティッド分野における車載/交通ビッグデータを活用したサービスを展開する
サービスインテグレーション	マイクロソフト連携サービス	Convergent	マイクロソフト社との連携ビジネスを推進、主にDynamics 365/Azure基盤の経営分析・マーケティングでDXを支援する
	マイグレーションサービス	Re@nove	レガシーICT刷新、クラウド移行やシステム・アプリ環境のDXを支援する
	セキュリティサービス	CyberNEXT, SmartSESAME	ネットワークに繋がるICT要素をセキュリティの脅威から防衛する製品群を保有し、セキュリティのコンサル・設計・構築・運用サービスを行う
	DXクラウド基盤	BizVision	クラウドプラットフォームに自社製品のアプリケーションを載せクラウド化を推進

(説明省略)

## 免責事項

- ✓ 本資料は、投資を勧誘することを目的として作成されたものではありません。
- ✓ 本資料に含まれる将来の業績に関する見通しは、日本経済や情報サービス産業の動向、その他本資料作成時点において入手している情報による判断および仮定により、算出しております。従いまして、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における内外の状況変化等により変動する可能性があることをご承知おさください。
- ✓ 本資料の記載内容は、当社の許諾を得ずに複製または転記、転載等を行わないようお願いいたします。

### 【お問い合わせ先】

株式会社シーイーシー

コーポレート統括本部 事業推進本部 経営企画部 IR担当

TEL : 03-5789-2442

コーポレート統括本部 管理本部 経理部 IR担当

TEL : 046-252-4111

E-mail : [IR@cec-ltd.co.jp](mailto:IR@cec-ltd.co.jp)

(説明省略)